

4月8日(火)

大学に進学した理由

聖書朗読 マタイ 25:14~30

よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。 マタイ 25:21

私の親戚で大学に進学した人はいませんでした。私は十代の頃には、炭鉱の町で育った私のような少年が大学教育を受けることなど到底見込みのないことだと、不可能だとさえ思っていました。ところが、その考えを変える二つの出来事があったのです。

一つ目の出来事は、イエス様がされたたとえ話との出会いでした。私の生まれ育った境遇の中で、私は自分が「タラントの者」であると思いこんでいました。しかし、周囲の人々、特に当時、私が通い始めた教会の人々は、私には神様からもっと多くのタラントを与えられているのだと教えてくれました。そして、私は神様が与えて下さった全てのタラントに忠実であるべきだと理解するに至りました。与えられた賜物を育てて使っていく責任があるのだ、と。

二つ目の出来事は、ラルフというクリスチャンとの会話でした。ある日曜日の礼拝後に、ラルフは「キリスト教の大学への進学を考えたことはあるの？」と私に尋ねました。私はこの質問には、言葉を失いそうになるほどに驚かされました。私はラルフに、「そんなことができるなんて思ったことさえないよ」と答えました。私の言葉に対するこの時のラルフの答えは私の人生を変えました。「もし君が大学に行くことを願うなら、それは必ず実現するよ」。

イエス様の御言葉のおかげで、私は主がお与え下さったあらゆるタラントを育てて使っていくことに没頭できるようになりました。ラルフの約束のおかげで、私は神様に身を委ねる信仰の道を踏み出すことができたのです。あなたには、神様はどんなタラントをお与え下さり、育てて下さっているのでしょうか？

讃美歌 291

祈り 愛する神様。主が私達にお与え下さっているタラントを育み使うことができるようにどうかお力を下さい。私達が人生の中で、自分自身さえも信じていけない時に、私達を信じてくれる「ラルフ」と出会えることに感謝申し上げます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ハロルド・シャンク

ウェストバージニア州 ヴィエナ

4月9日(水)

イエス様の御顔

聖書朗読 マタイ 25:31~46

すると、王は彼らに答えて言います。「まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにならなかったのは、わたしにならなかったのです。」

マタイ 25:45

私は、家族や友人からよく犯罪ドラマ好きであることをからかわれます。しかし犯罪ドラマを見ることで、他の人々の暮らしぶりを垣間見ることは興味深いですし、犯人のちょっとした失敗がその予期せぬ逮捕につながることに感心します。

現在、ほとんどの警察で使われている最新鋭の技術に「顔認識システム」なるものがあります。街中に張り巡らされた防犯カメラが犯罪の実行場面を捉え、犯人の画像をデータベースの画像と照合し、犯人の身許を特定します。

私は、住む家が無く飢えている方々、社会で見過ごされ、無視され、無価値であるかのような仕打ちを受けている方々の中にイエス様の御顔を覚えることが出来れば良いのに、と願うのです。イエス様は、その御名において渴きをおぼえる者にたった一杯の水を与えただけでも、それはイエス様ご自身のお世話をすることなのだと言っています。私達のうちで、イエス様のお苦しみをわずかでも癒したいと願わない者がいるのでしょうか。

軽んじられている方々のお世話をすることはイエス様をお世話することと同じです。苦しむ方々に奉仕させていただく時、私たちは神聖なるものに触れる恵みを受けているのです！

讃美歌 第二編 5

祈り 父なる神様。飢えたる方々、住む家の無い方々、踏みにじられている方々の御顔の内に、イエス様の御顔を見出すことができますように、どうか私達の目を開いてください。この世が無価値とみなす方々に、尊厳を持って接することができますようにお助け下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ケイ・バーナム・エヴァンズ
テキサス州 ラボック

4月10日(木)

世にある限り君の栄えと慈しみとを語り伝えん

聖書朗読 マタイ 28:8~20

それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、
聖霊の御名によってバプテスマを授け、
マタイ 28:19

皆さんは讃美歌502番「いともかしこし」を歌ったことがありますか？ この讃美歌の歌詞「世にある限り君の栄えと慈しみとを語り伝えん」は、歌うのは簡単ですが、行うことは難しいという人もいます。

私達は他人に、家族のこと、ペット、お気に入りのカフェ、旅行、車のこと、等々、たやすく話をすることができます。しかし、私達自身の心に最も近い主イエス・キリストのこととなると、話すことにためらいがあるのではないのでしょうか。

「引っ込み思案なので・・・」とか「誰かの気に障るのが嫌で・・・」と言う人がいるかもしれません。こうした恐れを主の前で正直に認めることが出来た時、主は、私達が求める愛と自信が与えて下さるのです。そして、私達が「語り伝えたい」と願っている人々のために祈る時、神様は語り伝えることができるように道をひらいてくださるのです。

主の計らいは、時には早く、時には遅くと、私達の期待するものとは違うかもしれません。しかし、神様は常に働いて下さっています。私達が友人を愛するよりもずっと、神様はその友人を深く、くまなく愛しています。そして、私達の思いも大事にして下さるのです。ですから、主は、私たちが友人に「語り伝える」時に、大いに喜んで下さるのです。

それが主の福音なのです。それが、私達が心を寄せる主の栄えと慈しみなのです。語るべき言葉も機会も愛も、全て主がお与え下さることを約束して下さい。ですから、私達は心から喜んで主の福音を語り伝えるのです。

讃美歌 502

祈り ご在天の父なる神様。どうか私達がイエス様の愛を未だ知らぬ人々に福音を伝えることを私達が心から望み、熱心になることができるようにお助け下さい。どうか主の道を示して下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン、
ユージニア・カイザー
バージニア州 アーリントン

4月11日(金)

シャドウイング

聖書朗読 マルコ 1:12~20

いと高き方の隠れ場に住む者は、全能者の影に宿る。 詩篇 91:1

昨今「シャドウイング」(職業教育の一種で、中高生などが企業で働く従業員に半日程度「影」のように密着して、職業や職場について体験的に学ぶ)の人气が高まっています。プロの専門家と一緒に過ごすことよって、特定の職種で働くということが実際にはどうということなのか理解できるのです。日常的な作業や、相手に直接質問をすることによって、職業選択の手助けになるのです。イエス様は伝道を開始されて間もない時期に、シモン、アンデレ、ヤコブ、そしてヨハネに「わたしについて来なさい」とお招きにられました。彼らは半日などという程度ではなく、イエス様の地上での伝道の終わりまでシャドウイングしたのです。彼らはイエス様と共に歩き、話し、食を共にしました。イエス様が病を癒すのを見て、その教えを聞き、そして、受難をその目で見たのでした。彼らにとって、これは職業選択のためではなかったのです。それはイエス様の弟子として生きることそのものにあつたのです。彼らはその目的を果たせたのでしょうか？

使徒の働きにこの問いを解く手がかりが記されています。ペテロとヨハネは、彼らが行う教えと癒しのゆえに、サンヘドリンで尋問を受けます。しかし、ペテロはためらわず、大胆に、イエス様以外に救いの道はないのだと証します。サンヘドリンの長老たちは、無学で普通の人であつたペテロとヨハネは「イエスとともにいたのだ」という結論に至つたのです(使徒の働き 4:13)。

弟子たちは3年もの間、イエス様に付き従いました。そして、弟子達が誰をシャドウイングしたのかは誰の目にも明らかでした。あなたの周囲の人々は、あなたが誰をシャドウイングしているのかわかるのでしょうか？

イエス様の近くに留まり、共に時間を過ごし、イエス様をシャドウイングしましょう！

讃美歌 451

祈り 父なる神様。私達がイエス様のお近くで生きて行くことができますように。周囲の人々が、私達が誰に付き従っているのか、私達がおの方の弟子であるのかははっきりと分かることができますようにお祈りいたします。私達の全ての行いがイエス様を現わしますように。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。
サリー・ジェーン・シャンク
ウェストバージニア州 ヴィエナ

4月12日(土)

手を差し伸べましょう

聖書朗読 マルコ 3:1~12

「手を伸ばしなさい」と言われた。彼は手を伸ばした。するとその手が元どおりになった。
マルコ 3:5

「手」は、私達が日々の生活を送るのに不可欠で、素晴らしく造り込まれた器官ですが、私達はそれを当たり前だと思っています。しかし、本日の聖書箇所が登場した男性は違います。この男性の手は人生を豊かにする器官ではなく、萎えて無用のものとなっていました。この男性は、子どもをその手に抱え、自らの手で口に食べ物運び、痒い箇所を掻き、言葉を書き、そしてぬくもりを周囲に伝える「手」を望んでいたに違いありません。

私は自分の手に感謝を感じることはほとんどありません。嬉しくはない関節炎の痛みに襲われた時、金槌で誤って親指を打ってしまった時、凍える寒さでかじかんだ手がぬくもりを欲する時、そんな時までは「手」のありがたみを忘れ去ってしまっているのです。

イエス様は健康な手に宿る美しさも創造の力もご存知です。虐げられた人々に触れられて、心も身体も癒されたのです。悪の束縛により、苦痛のうちに御手を絞られ、祈りをこめてパンを裂かれたのです。そして、この聖書箇所では、萎えた手の癒しを「善」と仰いました。この癒された男性も間違いなくそう思っていたでしょう。

「手」。善を行う力が無限に秘められた手。健康な手は私達の人生も、周囲の他の人々の人生も、素晴らしさで満たすことができるのです。

今日この日、「手」という神様からの素晴らしい賜物を心に留めましょう。他者を助ける方法を探しましょう。そして純粋な感謝と賛美の心で手を合わせましょう。

讃美歌 166

祈り 愛する神様。私達の祈りと賛美にどうぞ耳を傾けて下さい。私達はお与えくださったこの手を用いて、感謝と快く他者への奉仕を行う気持ちをあなたに捧げます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。
ヴァージル・フライ
テキサス州 ヒューストン

4月13日(日)

悲しき帰郷

聖書朗読 マルコ 6:1~6

彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私達も彼を尊ばなかった。
イザヤ書 53:3

多くの場合、帰郷は喜びに満ちたものです。しかし、イエス様のナザレへの帰郷は悲しみに覆われていました。イエス様は、伝道の間ずっと拒絶に遭い続けましたが、家族や友人、隣人に拒絶されることには、ことさらに、痛みを覚えられたに違いありません。彼らには「近所の子」として育った大工の息子が救い主であられるとは信じ難かったのです。ナザレの人々の不信仰に失望し、イエス様は幾つかの奇跡を行われただけで、故郷を後にしました。生まれてからずっと慣れ親しんできた人々の不信を目にしたイエス様はどんなにかお悲しみだったでしょう。

今日も、多くの人々はイエス様が神の御子であるとは信じていません。あなたもイエス様のことを伝えようとして拒絶されたことがあるかもしれません。イエス様のことを学びながらも、真実から背を向けてしまったお子様やご家族がいらっしゃるかもしれません。あなたは、あなたの愛する人が、神様の素晴らしい恵みを受けて、永遠に受け続けて欲しいと願うからこそ、傷つき、失望していることと思います。

イエス様もまた同様に失望を覚えました。しかし、しかし、希望はあるのです！ 私たちには祈りが残されています。私達はイエス様を拒絶する人々の目が開かれ、主を見ることができるよう祈ることが出来るのです。神様の彼らへの愛は私達の愛よりもずっと大きく深いのです！

聖歌 608

祈り 愛する神様。私達が神様の子どもになることが出来るように御子イエス様を地上にお送りくださって感謝します。人々にイエス様のことをお伝えする時にどうか共にいらして下さい。親しい者が真実から目を背けても、どうか私達がお父様に忠実であり続けることが出来ますようにお力を下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。
ジェイン・ポー・マッシー
テキサス州 ヒューストン